

日時：2013年5月11日（土）～12日（月）

場所：福島県南相馬市

参加人数：27名

■はじめに

今回、こういった形でのボランティア参加は人生で初めてでした。震災以降、募金はしたものの、復興支援に関することは何ひとつしておらず、連合会からボランティアの案内が来るたび業務都合等で参加できないことを心苦しく思っていました。連合会の一員としても、一個人としても、ちゃんと現地を見ておく必要があるのではないかと思います、意を決して参加しました。

関西方面からの参加者はまだまだ少ないと思いますので、本レポートを通じて、連合会や同じ労働組合に所属しているみなさんが、今後こういった活動があれば参加しようと思っていただければ幸いです。

■1日目活動内容

出発時からあいにくの曇天模様でしたが、ホテルを出発して2時間弱で南相馬ボランティアセンターに到着。今回の活動場所は南相馬市小高区。ここ南相馬市は放射能の影響で2012年4月にやっと警戒区域指定が解かれた場所であり、1年前まで立ち入りができなかったとのことで、まだまだ復興が遅れている区域だそうです。現在も日中の滞在は可能ですが、居住はできない区域です。

個性的なボランティアセンターの所長さんの話を聞いたのち、作業場所へ。移動途中、「ここを津波が襲ったんだろう」と思われる場所を通過しました。辺り一面、不自然な水平線が広がっていました。ぺちゃんこになった車、壊れたガードレール、ボロボロの建物が手付かずに残っており、音がしない生活感のない空間にただただ言葉を失うばかりでした。



ボランティアセンターから数十分で作業場所に到着。作業開始前に依頼者の方からは、「南相馬の避難者はもうみんな家に帰れていると思われているが、そうじゃない。生活できる状態ではないということ、みなさんの口で伝えてほしい。」というお話しがあり、切実な想いを感じました。

この日の作業は、依頼者宅の瓦礫処理と付近の排水路のドブさらいを手分けして行いました。家のなかにあった瓦礫などはとりあえず家から出ただけの状態だったので、燃えるごみ、燃えないごみに仕分けし整理するといった作業を行いました。ごみ、と言っても、冷蔵庫、年賀状、アルバム、家計簿らしきファイル、などなど生活が垣間見れるものも多く、捨てざるを得なかった現状に心が痛みました。

水を吸った瓦礫やごみの運搬作業は想像以上に大変でした。瓦礫には釘がささったままの家具の破片やガラスなどもあり、怪我をするおそれもありますので、鉄板ソール入りの長靴や皮手袋の用意な

ど、装備は万全にするに越したことはありません。

作業終了間際に雨が降り始めたため、本降りになる前に作業終了。一路仙台へ戻ったこの日の夕食は、参加者にて懇親会でした。この日はJTB東北労働組合の新旧執行部の方が参加されていたのですが、定期的にボランティアをされている大先輩から「みなさんが今日片付けたごみはただの瓦礫やごみではなく、いろんな想いがつまったもの。そんな想いを感じながら明日も作業頑張ってください。」との挨拶がありました。昼間に見た野球のボールや洋服や調理器具などなどを思い出し、みんながボランティアに対する想いなどを話したりして懇親を深めた夜でした。



■ 2日目活動内容

2日目の作業内容は、1日目と同じく南相馬市小高区の個人のお宅で草刈りでした。ボランティアセンターに寄ってから、道具を積み込んで出発。1日目は土曜日だったからかかなりの人がいましたが、この日は1日目よりは少なめ。平日となると、人もまばらだそうです。

この日の依頼主の方は、早期退職して農業をされていた方でした。投資して育てたアスパラガスを収穫しようとした矢先の震災だったそうです。さみしそうに笑いながら、「アスパラガスは一度ダメになった場所では二度と栽培できない。これからどうしていったらいいんだろうねえ・・・」とお話しされていて、切ない想いでいっぱいになりました。

お宅の裏庭、震災以降手つかずになっているビニールハウス周辺など3班に分かれて分担して草刈り作業を行いました。裏庭には見事なつつじが何本かあったのですが、手入れもままならないからでしょうか、病気になってしまっている木もあり、かわいそうでした。

裏庭の草刈りが終わった後は、広大な原っぱの草刈り。初めは男性のみが草刈り機を使って作業していたものの、途中で負けじと女子も加わり、短時間で相当な広さの草が刈れました。しかしながら、この日は帰阪しないといけないため、残念ながら全て完了するには至らず。最初からみんなで草刈り機を使っていれば全範囲できたんじゃないか、と後悔しました。

みんなで頑張った結果、かなり広範囲の場所をきれいにできたものの、今後の依頼者の方のことを考えると、何とも言えない想いになりました。

今回作業をした小高区は、南相馬市の中でもまだ日中しか帰宅が許されていないエリア。帰路途中に通った別のエリアと比べると、そこには生活感があり、同じ南相馬市でも全然違いました。今回作業して整理した瓦礫もまだ仮置き場も決まっていなく、とりあえず集めただけ。復興にはまだまだ時間がかかるエリアのようです。

作業終了後は、ボランティアセンターに寄った後、空港までの帰路途中にあるスーパー銭湯で汗を流しました。あんなに気持ちいいお風呂は久しぶりでした。



■さいごに

関西組4名で仙台空港まで行く途中、ドライバーさんが空港近くの被災地に寄ってくれました。よくテレビでも映っている空港近くの現場です。この辺りは一帯が住宅街だったようですが、そんなこと信じられないくらいの原っぱでした。そんななかで写真の家はなぜか1軒だけ残った家だそうです。



仙台空港には当時の様子が飾られていましたが、当時の壮絶な様子が見てとれます。



南相馬ボランティアセンターの所長さんが言っていた、「できる人ができるときにできることをする」、これは私たちが日々職場で働くうえでも言えることだと改めて思いました。また、ボランティアに参加しなかったらお会いすることもなかった方とも交流が図れたので、とても貴重な経験ができたと思います。

今回、初めてのボランティア参加でしたが、1人参加の人も意外と多かつたし、女性の参加も多数ありました。連合会主催では次いつ募集があるかはわかりませんが、力仕事ばかりではないので、もし関心がある方がいたら、ぜひ参加していただきたいです。

連合会執行部の皆様、事前の準備や当日の運営等、お疲れ様でした。一緒に参加した皆様もありがとうございました。今回見たり聞いたりした被災地の現状や被災者の方のことを忘れず、残された自分たちが「できること」が何かを考えていきたいです。また機会があれば、是非参加したいと思えます。



以 上